

県勢 栄光の証言

全国高校サッカー100回

中

1967年1月の第45回大会。2度目の全国制覇を狙う秋田商と藤枝東(静岡)の決勝は大接戦となった。2度の延長を含め、計120分を戦ったが0-0のまま動かず、大会史上3度目の両校優勝となった。

当時3年で優勝メンバーの夏井重利さん(73)男鹿市IIは「テクニクでは藤枝東が上だった。でも私たちに球際の強さや体力、スピードがあったので、相手の思うようにはさせなかった」と胸を張る。優勝の瞬間は「みんなびんときていない様子だった。淡々としていた」。

決勝は夏の全国高校総

秋田商2度目の全国V

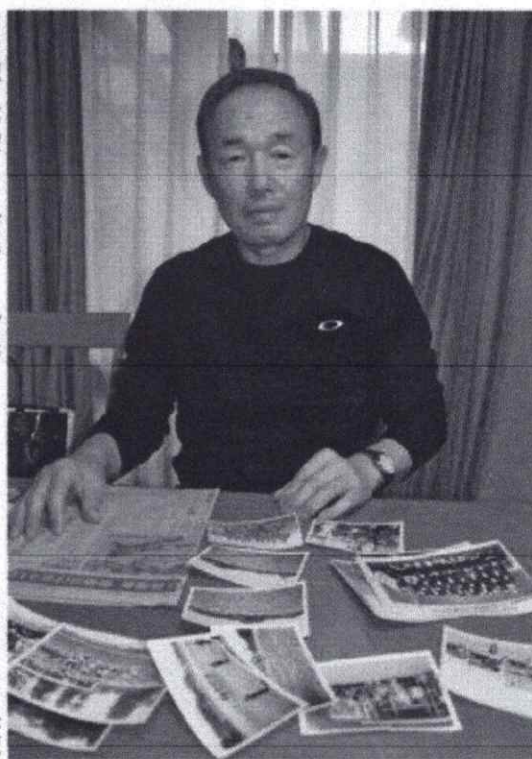
OB・夏井重利さん

堅守を支えた精神力

的な強さが鍛えられた。1試合目よりも2試合目の方が楽に感じたもので、いくら走っても疲れ知らずだったという。

メンパーにも恵まれた。攻撃を担うFWには日本リーグの日立製作所で活躍した平沢周策さん(当時3年)、三菱重工に進んだ足利道夫さん(当時1年)がいて、2人は日本代表にも選出さ

れた。一冬の選手権で、あれ以来秋商は優勝していないだよ。そう話す夏井さんは誇らしげな一方で、どこか少し寂しげ



秋田商3年時に全国優勝を経験した夏井さん

第45回大会の秋田商の戦績

試合結果	対戦相手
1回戦 ○2-1	徳島商(徳島)
準々決勝 ○1-0	明星(大阪)
準決勝 ○1-0	市浦和(埼玉)
決勝 △0-0	藤枝東(静岡)

OBとして母校の活躍を今も願わずにはいられない。2018年度の第97回大会では、母校が県勢として14大会ぶりに初戦を突破。8強入りした戦いに胸が熱くなったという。18年8月、全国優勝の同期で母校の監督を長年務めた外山純さんが亡くなった。苦業を共にし、酒を酌み交わす仲だった。「外山の思いが(選手に)乗り移ったと思う。感無量だったよ」